

# 松戸市議会議員 原ゆうじ 市政報告 VOL.65



TEL:070-5540-9565 FAX:367-6754  
 メールアドレス yuji.hara88@gmail.com  
 ブログ(原ゆうじの日記)も好評配信中!  
 原ゆうじ公式 HP:hara88.mo  
 発行元:松戸市上本郷 905

(原ゆうじのプロフィール)  
 1965年松戸生まれ 上本郷小、六中、立教高校、立教大学理学部化学科卒。長瀬産業(商社)勤務を経て現在、ベーカリー店経営  
 H22年市議初当選、現在3期目 妻、4子(3男1女)の6人家族

## 税金の無駄遣いは許さない!

# どうなる? 上本郷市立病院跡地の約4400坪行方? 地元説明会が紛糾!

そもそもなぜ売却なのか? なぜ市で使わないのか? 売却先はどこなのか? 紛糾した市の売却説明会!

平成29年12月の千駄堀新病院開院後、全く活用されることなく、多額の警備費用をかけ、ただ放置されたままの状態が続く上本郷の旧市立病院跡地ですが、7月7日(日)看護学校で病院主催による「病院跡地売却に向けての説明会」が開催されました。

当日は100人以上の参加者が詰めかけましたが、説明後の質疑応答では、市のあいまいな説明に会は紛糾。結局、「なぜ売却なのか?」ははっきりとは示されず、多くの疑問が残る説明会となってしまいました。放置の続く上本郷病院跡地、さて、今後どうなるのか? 詳しくレポートします。

【約1年半以上放置が続く旧病院跡地】



## 市はサウンディング型調査(注1)後、プロポーザル手法(注2)で相手先を決め売却の方針

市の方針は「売却」です。売却対象は、旧病院の1~5号館等(敷地面積約4,400坪)の全てですが、**多額の解体費用のため**、更地とはせず、現況有姿(建物そのまま)での売却方針となっています。又、駐車場は別方法での売却予定となっています。

市が描く今後のスケジュールは、8月末まで地元要望(医療関連施設誘致)に配慮しつつサウンディング型調査を行い、9月末にその結果を公表。その後、公募型プロポーザルを行い来年3月には売却先を決定したいとしています。混とんとしてしまった説明会。

放置の状態から一転し跡地売却へ! 不満、疑問が噴出した説明会! 疑問点はどこなのか? (右面へ)

### (注1) サウンディング型調査とは?

購入の可能性のある民間事業と、購入後の活用策について意見、提案あるいは市からの要望など広く対話(相談)し、売却の可能性を見極める調査。

今回は事業者を決めるプロポーザルの前調査として行うものです。

### (注2) 公募型プロポーザルとは?

委託先や売却先を決める際、広く公募し複数の事業者に事業提案をしてもらい、その中から相手先を決める手法。今回は(価格+提案内容)をもとに市は決める方針。

# 売却への疑問が噴出した7月7日の説明会! 売却に対する疑問・問題はどこにあるのか?

## 疑問点① 売却価格の見込みがわからない=安価の売却でいいのか?

上本郷旧市立病院は、建材としてアスベストが使用されており、かつ、今年行われた地質調査では「土壌汚染が存在する可能性は否定できない」との結果でした。そして「延床面積約32,000㎡の建物の大きさからみても解体費用はかなりの高額になる」と判断した市は、『解体はせず、建物付きの現況そのままの売却方針』としました。仮に更地であれば相場は坪50~60万円と見込まれますが、こうした状況から、売却価格は更地相場の1/4から1/5程度となる可能性があると思われます。

市の貴重な財産を極端な安価で本当に売却していいのか? と疑問が残るところです。

## 疑問点② 安い売却価格 ⇨ 売らずに公共施設として使用するべきではないか?

これまでも跡地活用の提案はありましたが、市は一度も議論を行おうとはしませんでした。しかし現在、市役所の移転先などで土地取得の動きがあります。約4,200坪の病院跡地が仮に極端に安くしか売れないならば、この場所をこうした公共用地として使うべきではないかとも思えます。

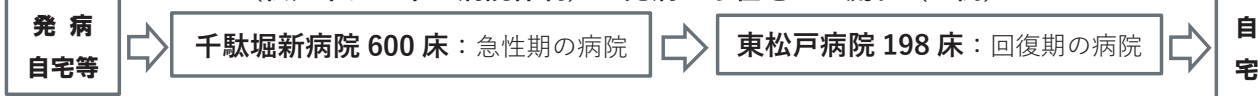
また、上本郷旧病院は2~5号館は耐震性には問題ありません。ですので、これらの建物を使用することの検討をしないのは疑問です。

## 疑問点③ 売却目的(病院事業の借金返済)は本当に達成されるのか?

病院事業は総額290億円を超える借金があり、上本郷旧病院売却の目的は借金返済の為としています。安価な売却であればそれほどの効果が見込めないのは明白です。

# 耐震性に問題! & 大赤字の東松戸病院! なぜ、当面継続? こちらにも疑問が、、

(松戸市は2市立病院体制) 発病から在宅への流れ(一例)



## 疑問点① 耐震性ありの上本郷旧病院は売却! しかし、大赤字&耐震性の無い東松戸病院は継続に、、、なんで?

東松戸病院は外来・入院の中心である6号館が耐震不足であり、仮に大地震が発生して倒壊ともなれば市の責任は重大です。また、右表のように経営も赤字です。耐震性のある建物(上本郷2~5号館)が売却され、逆に耐震性が無かつ赤字経営の東松戸病院がなぜ継続ということになるのか疑問です。

東松戸病院税金投入額表(単位:百万円)

	26年度決算	29年度決算
医業収益(売上)	1599	1706
医業費用	2338	2373
繰入金(税金投入額)	1024	613

## 疑問点② 東松戸病院継続=建て替えが必要! 出来るのか?

東松戸病院の今後は、審議会に諮問されていて、今年度までの経営状況を見て、継続か否かの判断がされる見込みです。仮に継続となれば、耐震性のない建物での診療は考えられず、建て替えがどうしても必要となりますが、建て替え費用は少なくとも数十億円以上と見込まれ、大赤字の状況で果たして建て替えが可能なのでしょうか? 大いに疑問が残ります。

## 疑問点③ 松戸市は二つの病院を本当に経営出来るのか?

平成29年度病院事業では、2病院合計で54億円弱(決算値)の税金投入が行われました。市の借金は増加中であり、さらに市役所建て替えなど資金需要が増している中、病院事業に多額の税金投入を続けることが出来るのか? 東松戸病院の役割(千駄堀病院の後方支援病院)を担ってもらえるような民間病院の誘致をし、2病院から1病院体制への検討を今こそすべきではないでしょうか。

# 次回、病院説明会は9月29日(日)PM2時~

場所: 千駄堀新病院、2階大会議室にて、 予約不要! 皆様のご参加をお願いします!



# 長引いた病院問題！ これまでの経緯を振り返る！

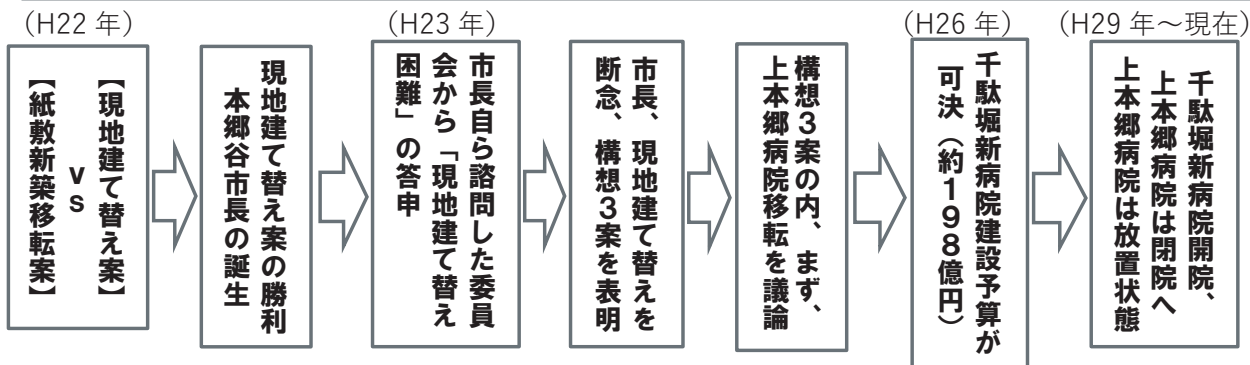
**\*そもそも市立病院問題とは？ = 松戸市の市立2病院の建物耐震性不足の問題**

上本郷病院(613床)は1～5号館のうち1号館(300床)のみが耐震性不足

東松戸病院(198床)はメインの6号館が耐震性不足 **\*大地震で倒壊の恐れ、これをどうするか？**

**\*現地建て替え案とは？ = 上本郷病院で耐震不足の1号館のみの建て替え案**

1号館(病床数300床)を150床に減床して建て替え、耐震性を満たす2～5号館は改修して使用するという案。全体が613床から450床になり、建て替え部分が1号館150床部分のみなので、川井前市長の紙敷への600床全面建て替え移転案に比べ、はるかに安価であると本郷谷市議(当時)は主張した。



## なぜ、現地建て替えは出来なかったか？病院問題これまでの経緯を振り返る

- 平成13年1月：上本郷病院の1号館耐震性不足を協議するため議会内に特別委員会が発足。
- 平成20年12月：川井前市長、検討されてきた運動公園、千駄堀移転案、現地全面建て替え案を断念、紙敷(現東松戸)に病床数600規模の病院を建設し移転させる「紙敷移転案」を発表。
- 平成22年2月：原ゆうじ他2名が代表となり「移転計画の是非を問う住民投票」実現のための署名(約32,000人)を集めるが、市議会で住民投票条例案は否決される。
- 6月：「現地建替え(1号館のみ300床から150床への建て替え案 2～5号館は改修後使用する案)を訴えた本郷谷市議(当時)が紙敷移転案の川井前市長を破り、市長初当選。
- 9月：新市長、審議会(医師4人市民3人有識者3人)を設置、現地建て替え案を諮問。
- 平成23年3月：審議会「現地建て替え困難」との答申。さらに老朽化した東松戸病院(高塚新田)の建て替えも提言される。この提言で1病院から2病院のダブル建て替えの検討へ
- 6月：市長、5候補地組み合わせによる2病院建て替え8案を提示。うち、「現地建替え」の案を推奨するも、450床規模の縮小案等のため、議会&医療関係者は強く反発する。
- 9月：市長、病院早期建設の必要性のためとして現地建て替え案を断念。代わりに構想3案(上本郷病院を千駄堀へ、東松戸病院を上本郷へ移転)を推奨案とする。議会も構想3案の審議を了承。まずは千駄堀への移転建て替えの是非が審議入りへ。その後、千駄堀案か紙敷案で議論。2病院が近接するメリット(2病院連携)により千駄堀案が有力となる。
- 平成26年11月：2度の増額修正を経て、千駄堀新病院建設費用(約200億円)が議会で可決される。
- 平成28年3月：約3,000万円をかけた「市立2病院のあり方」のコンサルタント調査結果を市は受領。
- 7月：一向に審議されない構想3案に対し、構想3案推進の要望書を地元町会等が提出。
- 平成29年7月：市長、「市立2病院の在り方」をまた審議会(第三者委員会)に諮問(丸投げ?)。
- 11月：審議会から新病院移転後の上本郷跡地について、以下の「答申」が出される。  
『市立病院としての活用の必要はなく、売却し、企業債(借金)返済に充てることが妥当と考える』
- 平成30年2月：公立での病院存続が困難との答申を踏まえ、かつ東松戸病院の閉院を見越し跡地に民間の医療施設誘致の要望書を地元町会、商店会が提出。
- 9月：審議会から東松戸病院の今後について答申「平成30、31年度の経営状況を見極め判断。」この答申を受け、病院から構想3案の取り下げが表明される。
- 令和元年7月：看護学校にて病院跡地売却に関する説明会開催。市長、病院管理者とも欠席！

(本当にこのまま上本郷旧病院は売却、東松戸病院は継続でいいのか？原ゆうじの考えは右面へ)

# なぜ？動かなかったのか？松戸市の姿勢に疑問

**原ゆうじの視点！** 本郷谷市長、現地建て替えの公約から早9年。そして「現地建て替え」公約撤回後、上本郷病院をどうするのか？について、市の対応、動きはほとんどありませんでした。

## 最大の疑問！「構想3案」市は本当にやる気だったか？

平成26年11月、千駄堀新病院の建設費が議会で可決となり、いよいよ次は、構想3案の上本郷病院をどうするのか？の審議に移るものと思っていましたが、議会との具体的な審議は一向に始まりませんでした。そして28年3月、約3,000万円をかけたコンサルタントからの結果(今後の2病院の在り方)が出た後も、さらに地元町会・商店会から構想3案推進の要望書が出された後も、議会との審議はただの一度も行われませんでした。  
**突然の審議会設置 → 上本郷病院放置が決定！**

そして移転まで約半年と迫った29年6月突然、「2病院の在り方」を話し合う審議会の設置を、市と議会は決めてしまいました。この時点での諮問ということは、上本郷病院の放置が決まったも同然。「なぜ、市は審議会に丸投げしたのか？ 構想3に対して動かなかったのか？」本当に不思議です。構想3案のうち、上本郷病院2～5号館を改修して日常支援病院として開院させる部分については、「初めから本当にやる気があったのか？」と言わざるを得ません！

## 構想3案はなぜ、話し合われなかったのか？ 又、取り下げもしなかったのか？

結局、この構想3案の取り下げは昨年9月に行われましたが、構想3案の提案から実に7年も経ってからのことでした。しかし、なぜ、この間、取り下げは行われなかったのでしょうか？

市長公約である「現地建て替え」も「構想3案」も、耐震性に課題の無い2～5号館を改修して引き続き病院として使うものであり、それはつまり現地建て替えにしても、構想3案の実現にしても、実は上本郷の地に今後も病院が残ることを意味するものでした。構想3案を提案しておきながら審議もせず、かと言って提案の取り下げも行わなかったのは、9年前、「現地建て替え」の公約を支持し、上本郷に病院が残ると信じていた人々の反発を恐れていたからではないのか!? 要するに、元々構想3案の提案とは、そうした人々の反発をかわすためのものだったのではないのか!?と疑いたくもなります。

## 構想3案はなぜ提案されたのか？ 構想3案は千駄堀新病院を決めるためだったか？

上本郷病院(急性期病院)の移転先は平成23年から24年にかけて、千駄堀 or 紙敷(現東松戸)で激しい議論がありましたが、最終的に千駄堀、上本郷と市立2病院が近接していれば、連携がしやすいとの理由が決め手となり、千駄堀に決まりました。

しかし、その上本郷に病院を残さず、東松戸病院を残すとしたら、そもそも千駄堀ではなく東松戸病院に近い紙敷のほうがよかったのではないかと問われかねません！

一体、何のための議論だったのか？とむなしくもなります。

## 放置期間の警備費用はなんと約1億1,000万円！ 何のため？ 誰が責任を取るのか？

説明会で、放置期間中にかかる上本郷旧病院の警備費用が総額約1億1,000万円となることわかりました。放置期間中の旧病院周辺は人通りも少なくなり、周辺商店の閉店も相次ぐこととなってしまいました。移転後の活用策さえ決まっていればこうした費用や街の衰退もなかったはずです！市と病院の責任は重大です。一体だれが責任を取るのか？しっかりと市&病院は説明すべきです！

## 原ゆうじの考え！ 市は地元要望を優先に！市民財産のたたき売りは疑問だ！

7月の説明会では、なぜ売却なのか？ どうして公共施設として使わないのか？ 極端に安く売る位なら、市で使うべきでは？との意見がありました。私もそう思いますが、これまで公共施設としての活用については、議会でもそういう意見はあったものの、市は聞く耳を持ちませんでした。

また繰り返しになりますが、上本郷の2～5号館は耐震性に問題はありません。しかし、当面は存続することとなる東松戸病院は耐震性に課題がありますし、税金投入額は近年では年6～12億円となっています。なので、市にとって東松戸病院への税金投入を減らす方が、売却価格を多少上げることよりも金額的には重要です。また、上本郷跡地に地元の要望通り、医療施設が来て千駄堀病院と連携できれば、おのずと東松戸病院の必要性は薄れ、廃止への検討も始まるのではないかと思います。

ですので、上本郷跡地への医療関連施設誘致は、市・地元の双方にメリットがあり、「市民の命を守るべき市立病院は耐震性がなく、実は危ない！」といった本末転倒もなくなるものと考えます。

**原ゆうじは、残された時間はわずかですが、病院問題解決をあきらめず全力を尽くしてまいります！**

構想3案とは？  
① 上本郷病院(急性期)を千駄堀へ新築移転  
② 上本郷病院2～5号館を改修後、東松戸病院(回復期)を上本郷病院跡地へ移転(外来、リハビリ、検診などを行う日常支援病院として開院)